

後援会

たより

イマヌエル
聖宣神学院後援会
http://btc.jp.n/

BTC後援会5年目を迎えて ～見えないものに目を止める～



副会長 池田光重
(千葉教会)

「私たちは見えるものではなく、見えないものに目を留めます」

(コリント4章18節)

BTC後援会が発足し、5年目を迎えました。この間のBTCを顧みずと当初願っていた様子とは違っていることに気づかされます。後援会の働きによって、直接献身に導かれる信徒が興され、BTCキャンパスが神学生で満ち溢れる姿を期待していたのも確かです。そして、地域教会では直接献身に備

える信徒が数多く待機している姿です。

確かに、若い献身者が興され、神学院の設備や環境も改善されました。そして神学生が自分で考え行動する、自立・自律の訓練がより一層深められたように思います。過去の、パウロ的な風潮は笑い話となるような雰囲気になり、神学院と信徒の間の敷居が、過去に比べれば相当低くなったのではないでしょう。

少しづつですが、神学院にも活気が戻りつつあるように覺えたのも確かであり、神さまの憐れみの故であることを覺えました。

しかし、ここへきてインマヌエル綜合伝道団からの献身者がゼロというだけでなく、在籍者に教団出身者がゼロというところになりました。見えるところは、最悪？とも言うるのではないでしょう。

昨年の後援会たより第7号で、後援会長の中山朝雄氏が巻頭言でイザヤ書59章1～2節を引用し語っていましたが、私たちの側になにか問題があるのか？と自問自答を促されておりましたが、1年を経過して状況はさらに悪化しているように思います。

パウロはコリントの信徒に対して「見えるものは一時的である」と語ります。背後には永遠に続く「見えないもの」があることを教えています。

見えないものは「肉眼」では見ることはできません。一般的に言われる「心の眼」とも違うと思います。パウロが語るの「霊的な眼」つまり聖霊に働いていただいで開かれる「心の眼」ではないかと思えます。それは聖霊の導きによって、聖書

から教えられ、理解させていただけの事ではないでしょうか。

ただ、見えるものにも幸いなことがあります。それは入学者が与えられている、ということ、学びと訓練の中に置かれていう神学生の方々が「いる」ということです。見えるものの中にも希望と感謝があります。教えられますのは、見えるものに「喜一憂しないことではないでしょうか。周りの環境がどのようなになるうとも、見えない

目次

巻頭言	1
祈りの課題	1
BTC後援会世話人について	2
卒業生、新入生紹介	2
教師陣に、聞く	3
神学院での一日	3
推進委員からひと言	4
院長コラム	4
編集後記	4

神さまのこ計画、働き、栄光は永遠であり、そのことに目を留めての限り落胆することはない、とパウロは勧めています。いつ、とかどのような時、とかは「天の父なる神さま」が定めておられます。私たちに出来ることは「祈り」と「感謝」と神さまの計画は必ず実現することという「信仰」であることを覺えたいと思います。

私たちの願った通り、思った通りにはならないとしても、神さまは私たちの願いと思いを感えて、最善をなす方であることに信頼を置いて歩みたく願っています。

◆日々お祈りください

- ① 献身に導かれる方が与えられるように。特に、若い方々がさらに加えられるように。
- ② 神学生の学びと訓練が祝されるように。
- ③ 教師、職員、スタッフが恵みによって用いられるように。
- ④ 今後のキャンパス活用に主の導きがあるように。
- ⑤ 神学院の必要が豊かに満たされるように。
- ⑥ 後援会役員、推進委員、世話人が専ら用いられるように。
- ⑦ 後援会が経済的に自立していくことができませんように。